

サステナビリティ取り組み事例

東急建設が建設現場への移動に電気自動車の活用を開始 三菱オートリースとエネチェンジが車両導入と充電器の提供をサポート 建設現場の温室効果ガス削減を電気自動車導入により 3 社で推進

関連するマテリアリティ



地球環境に対する
真摯な取り組み



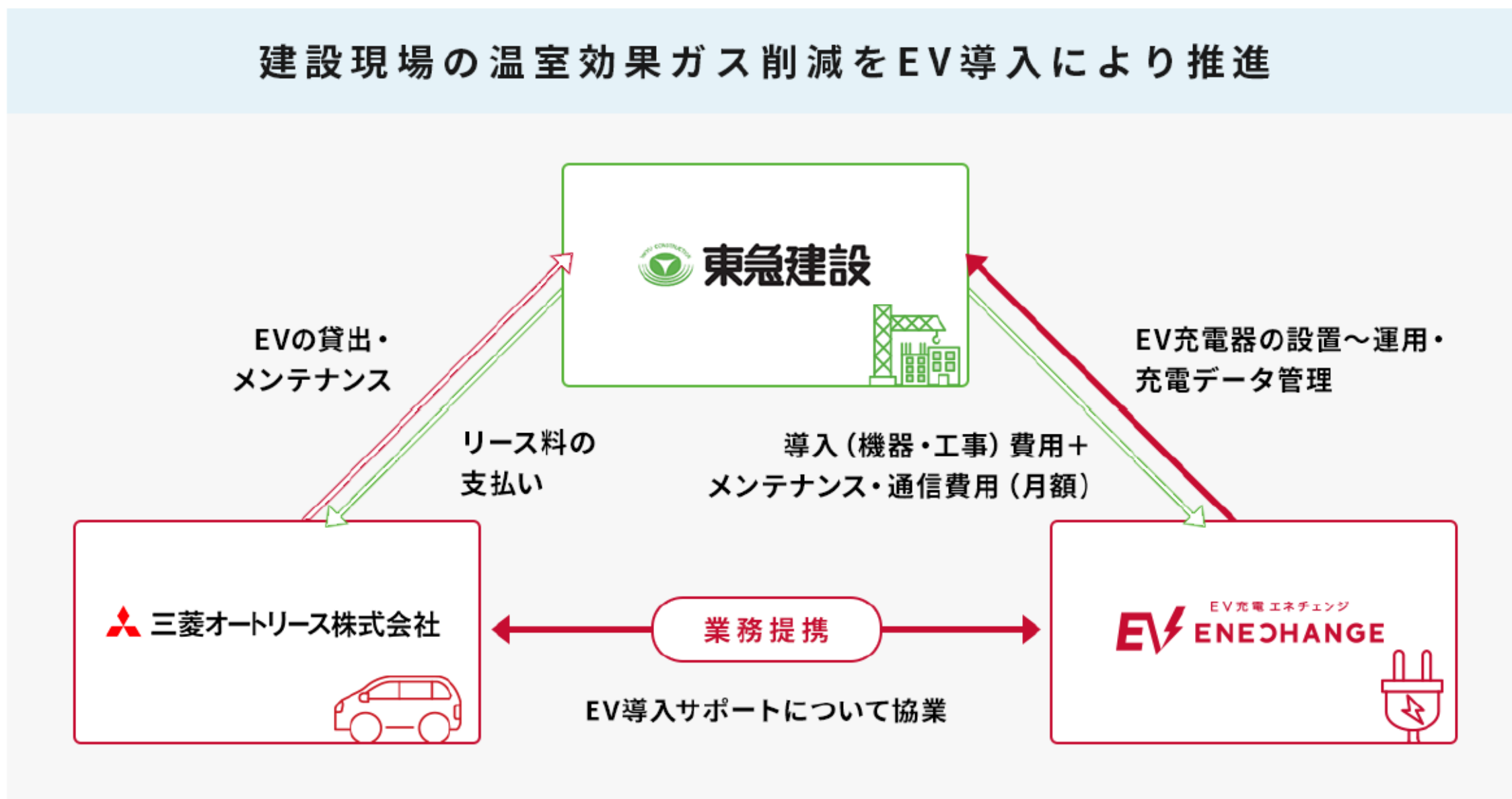
最適な“移動”の提供による
社会への貢献



パートナーシップによる
価値共創

東急建設株式会社、三菱オートリース株式会社、および ENECHANGE 株式会社は、電気自動車（以下：EV）の活用により、建設業界の温室効果ガス排出量削減に向けて共に取り組んでおります。

【本取り組みの全体像】



■背景

持続可能な地球環境の保全は世界的な課題であり、国内でも各業界が注力しています。建設業界も例外ではなく、2050 年のカーボンニュートラルに向け、日本建設業連合会では、車両・重機の CO2 排出量削減に積極的に取り組んでいます※。工期に合わせて車両を使用する建設業界の特性上、工事期間中の移動車両には、調達の容易なガソリン車をレンタルすることが一般的です。このガソリン車を EV に替えることで、走行時の CO2 排出量をゼロにできるほか、トンネル工事等の空気循環の芳しくない場所における労働環境の向上も期待されます。

※日本建設業連合会 HP より

■取り組みの概要

東急建設は、脱炭素社会や循環型社会の実現に向けた取り組みが評価され、環境大臣から「エコ・ファースト企業」の認定を受けています。また、東急建設は 2025 年 6 月に企業の科学的根拠に基づいた目標を設定する SBT 認定の更新を行い、"2030 年度までに温室効果ガス（Scope1+Scope2）の排出量 47.9%削減（2018 年度比）" を目標として掲げています。この SBT 認定目標を達成するため、移動車両を電動化する取り組みを東急建設・三菱オートリース・エネチェンジの 3 社が協同で進めてまいります。

《各社の役割》

東急建設：建設現場において EV の導入を推進し、1 台あたり年間 1.67t の CO2 排出量を削減する。

三菱オートリース：走行性能・安全性能に優れた EV を提案・リース提供し、車検や点検などの車両管理を行う。

エネチェンジ：納車の時期に合わせて EV 充電器を設置し維持管理を行うほか、充電量や充電にかかる電気料金のデータ解析を行う。

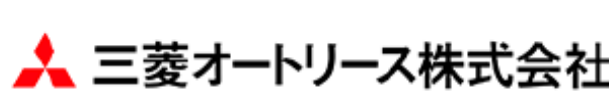
■取り組みの詳細と展望

2024 年 3 月、東急建設の作業所に合わせて 4 台の三菱 ek クロス EV が納車、エネチェンジの 6kW の EV 普通充電器 4 基が設置されました。三菱オートリースは、東急建設の車両導入計画に合わせて、今後も EV の提案・リース提供を継続して行なってまいります。また、エネチェンジの充電器は、車両の増減や建設現場・作業所の変更といった使用実態に合わせた設置が可能であり、今後も最適な充電環境の提供を行ってまいります。

【東急建設の作業所に導入された EV と充電器】



×



×

